

は機械力による問題も残されるが、「全員が気がねなく安心して介助してもらえる」とアンケートで示された。

以上の点からも考え合わせエレベーターバス、油圧式ストレッチャーは、PMD病棟に欠く事のできない入浴装置であり、より効果的に使いこなす訓練が必要かと思う。更に、

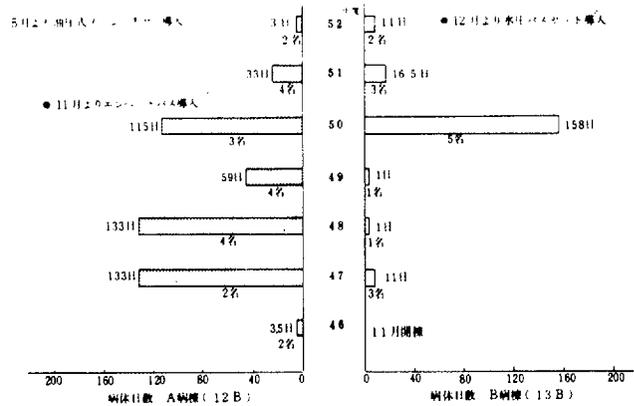
- 1) 浴室の拡張
- 2) 給湯設備
- 3) 脱衣室の工夫
- 4) 業務内容
- 5) 機械に対する知識
- 6) 職員の健康管理、等検討を要する。

〔おわりに〕

機械力の導入による心のゆとりを口かず少ない患児（者）に今後も日常生活をとおし、援助してゆきたい。

DMPニケ病棟より発生した腰痛関係による休養者と病休日数を示す。（エレベーターバス導入後減少している。）

年度別腰痛関係病休者（病気休暇による取扱い）



57 入浴システムについて

国立徳島療養所

- |        |        |
|--------|--------|
| 吉尾 千代子 | 東山 溪子  |
| 青木 喜美子 | 伊賀 二美恵 |
| ○高藤 信江 | 後藤田 真弓 |
| 福田 シゲル | 松原 秋子  |
| 深見 恵子  | 久次米 勝子 |
| 伊藤 秀子  |        |

進行性筋ジストロフィー症患者の、入浴に関する看護を共同研究の一端として、私たちは「入浴システム」について検討してきた。全国の国療筋ジ施設に入院中の患者について、入浴の方法

を知る目的で、15施設からのアンケートをまとめた。その結果、入浴介助においては、「抱きかかえ」が最も多かった。この抱きかかえ作業は、介助者の腰痛発生や、労働負担の点で問題となる。

そこで、当所における、抱きかかえ、ベルトコンベアー、エレベートバスの3つの入浴システムについて、エネルギー消費量の面から検討した。

〔研究方法〕

ガス代謝測定は、ダグラスバック法を用いた。第1回の実験は、51年11月、第2回は52年10月対象は看護婦2人、看護師4人である。介助患者は、デユシヤヌ型18人、体重は、ほぼ同じ程度の患者を選んだ。

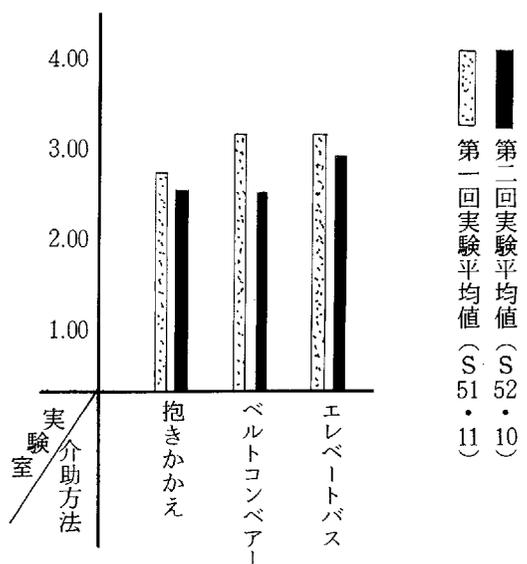
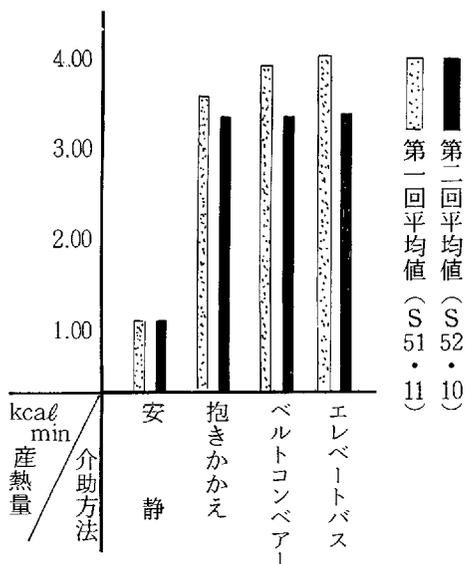
〔研究結果〕

6人の入浴介助の産熱量平均値は、第1図に示すように第1回の実験では、安静時1.17kcal/抱きかかえは3.70kcal、ベルトコンベアーは、4.08kcal、エレベートバスは、4.13kcalであった。この3つの入浴介助方法の産熱量では、有意差がみられなかった。なお第2回の実験においても、同様に有意差がみられなかった。

さらにRMRの算定では、第2図に示すように第1回と第2回の値は、それぞれ抱きかかえは2.71と2.65。エレベートバスでは、3.16と2.91。ベルトコンベアーでは、3.12と2.57であった。いずれも、第2回目の実験が小さい値を示していたが、統計的には有意差がなかった。

産熱量平均値（6人） 第1図

RMR平均値（6人） 第2図



なお、抱きかかえとベルトコンベアー、抱きかかえとエレベートバス、ベルトコンベアーとエレベートバスのこれらの相互の間にはいずれも有意差がみられなかった。これらのことは、入浴作業の習熟とか、安全性など色々な要因が考えられるので、更に検討の必要があるだろう。

入浴システムについては、設備の相違や、それにもとづく介助方法の相違があるために、介助者は、それぞれの施設にあった入浴方法を十分に研究し、改善につとめるべきだと思う。

なお、腰痛対策からみた場合、患者の移動に関しては、浴室内外での水平移動方式をとりいれて、介助者も、患者側も負担の少ない、入浴方法が理想的と考える。

## 「入浴に関する看護」入浴介助者の労作負担と健康管理

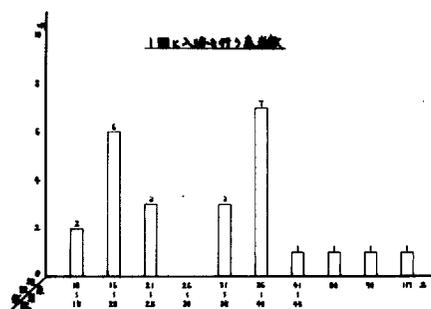
国立療養所東埼玉病院

大野 美佐子 岩崎 とよ  
前村 久子

「入浴に関する看護について」共同研究の一環として当院では、入浴介助の労作負担と健康管理について担当した。入浴はPMD患者にとって身体的精神的にも治療法の一つとしてもとらえられてきた。しかしその反面、患者の体重の増加、重症化に伴い介助作業について種々の問題を生じている。それらの問題点を明らかにして対策をたてることにより、患者の安全安楽をはかり、介助者の負担が多少なりとも軽減され健康管理につながることを目的として調査研究を行った。

1回に入浴介助を行う患者数は20～40名が多い。施設によっては、100名の所もあり開きがある。平均体重は30kg前後が多いが50kgの施設もある。入浴時間は1日1～2時間当てられているが3時間以上かけている所もある。入浴介助者は何所も看護婦が主体となっており、看護助手、保母、指導員が参加しPTも9施設介助に当たっている。保護者の介助が3施設みられ、この点は今後検討を待ちたい。

図1



↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

進行性筋ジストロフィー症患者の、入浴に関する看護を共同研究の一端として、私たちは「入浴システム」について検討してきた。全国の国療筋ジ施設に入院中の患者について、入浴の方法を知る目的で、15施設からのアンケートをまとめた。その結果、入浴介助においては、「抱きかかえ」が最も多かった。この抱きかかえ作業は、介助者の腰痛発生や、労働負担の点で問題となる。

そこで、当所における、抱きかかえ、ベルトコンベアー、エレベートバスの3つの入浴システムについて、エネルギー消費量の面から検討した。